編集後記

編集委員長という大役の打診を受けたことはまさに青天の霹靂。何が何でも固辞するはずだった私が，引き受けてみようかという気持ちに傾いた最大の理由は，本誌がもつ独特の「堅さ」にあった。近年の経営行動科学誌の傾向は，科学性を重視するあまり，ガチガチの定量研究ばかりが並んでいるのが現状である。無論，学会誌として科学性の担保は重要であるが，だからといって野心的な研究にいたずらに道を閉ざし，経営行動科学分野の発展を妨げるようなことがあってはならない。若手の研究者に「あの雑誌なら，私の想いを受け止めてくれるレフェリーがいるかもしれない」という気持ちをもってもらう雑誌にならないものだろうか，と日頃から感じていた。

そんな想いで今回，大きなナタを振るったのが特集記事の大幅削減である。手に取った方はその歴史的な薄さに驚かれたかもしれない。学術情報誌は，投稿者の熱い想いを込められた論文こそが最上のコンテンツのはずである。新米編集委員長としては，そうした想いを広げられるような企画を任期中にひとつでも実現できればと考えている。

編集委員長　犬塚　篤